



博士 (人間科学) 学位論文 概要書

直立姿勢における平衡機能と情動との関連性

Relations between the equilibrium function and emotion  
in the standing posture

2003年1月

早稲田大学大学院 人間科学研究科

斎藤 富由起

Saito, Fuyuki

研究指導教員： 春木 豊 教授

## 博士論文概要書 直立姿勢における平衡機能と情動との関連性

899B506-6 斎藤富由起

ヒトが他の動物と異なる際立った特徴は、直立し、二足歩行を行う点にある(鈴木, 1998)。この直立二足姿勢(以下、直立姿勢)は、複雑なヒトの運動の基本となる姿勢であるが、相対的に重心が高く支持面が小さいヒトの立位構造は、直立に不安定な形態となっている(福田, 1974)。このような構造にもかかわらず、複雑な運動を可能ならしめる機能として、平衡機能が存在している(e.g., 福田, 1974; 吉倉, 1974)。第一章においては、心理学において、直立姿勢における平衡機能と情動に関する実証研究は、経験主義的には強調されてきたが、非常に乏しい状態にあり、吉川・菊池(1997)による閉眼条件における特性不安と身体動揺の正の相関が報告されたのみであったことが展望された。そこで、第二章において、本研究では春木(1998)の「まっすぐに立つ」ということ情動には関連性があるとの仮説に基づき、直立姿勢における平衡機能の指標として身体動揺を使用し、情動との関連性を追究することが目的とされた。

第三章における研究 1, 研究 2, 研究 3 の結果から、本研究によって吉川ら(1997)による閉眼条件での特性不安と平衡機能との関連性のみならず、直立姿勢における平衡機能は開眼条件においても状態不安および特性不安と関連性を持つことが明らかにされた。また、安静期での特性不安は、先行研究とは異なり、特性不安と負の相関を持つことが示された。

さらに、研究 1, 研究 3 において安静期の平衡機能と関連性を持つ情動は、活動的快や親和などの肯定的内容の情動であることが示唆された。また平衡機能は状態・特性不安のみならず、上位概念である多面的な肯定的気分状態の低下と否定的気分状態の向上とも関連性を持つことが明らかにされた。

安静状態が崩され、情動喚起が生じると、平衡機能の安定性に低下が生じる影響が明らかにされた。研究 1 からは、情動喚起刺激と同時に、驚きが生じ、不安が高まり、集中が乱れ、肯定的気分が低下して、平衡機能の安定性の低下が生じるとの解釈がなされた。また、研究 3 においては、不安が高まると同時に、情動喚起状況に対して敵意(怒り)、非活動的快に変容が生じ、平衡機能の安定性の低下が生じるとの解釈がなされた。情動喚起状況で敵意が平衡機能と正の相関を有することは新たな知見である。

第四章では、実際の対面状況での平衡機能と情動との関連性を検討するため、パーソナル・スペースの侵害による情動喚起を使用して、平衡機能に与える影響を確認した。その結果、パーソナル・スペースの侵害は状態不安を喚起させ、平衡機能の安定性に低下が確認された。パーソナル・スペースの侵害による状態不安の喚起は、平衡機能の安定性を低下させるのと同時に、瞬目反応を増加させ、視線合致度を下げるという結果から、身体動揺と不安との関連に妥当性が確認されたと言える。

研究 5 では、社会不安の高低群に対面場面による情動喚起を使用して、平衡機能への影響を検討した。その結果、不安が上昇した高社会不安群は、不安が向上しなかった低社会不安群と比較して、平衡機能の安定性が低下した。さらに研究 5 においても、高社会不安

群に瞬目反応の増加が見られ、妥当性の確認がなされた。研究4、研究5の結果から実際の対人場面においても、状態不安の向上は、平衡機能を低下させる影響を持つといえる。これらの結果は、研究1、研究2、研究3で見られた平衡機能と情動との関連性と一致しており、さらに瞬目反応による妥当性が確認されたと考えられた。

第五章における総合考察では、全ての研究を通じて、平衡機能と一貫して関連性が確認された情動は状態不安であり、不安の向上は平衡機能の安定性を低下させるとまとめられた。この不安と平衡機能との関連性の基盤には自律神経系を介した身体的機序が想定され、抑うつ・不安の向上と肯定的気分の低下もまた直立姿勢に影響を与えていることが明らかとなった。さらに安静期における特性不安が一貫して平衡機能と負の相関を持つことが本研究により初めて明らかにされた。

姿勢制御研究は「立つ」という行為を生理的メカニズムにより説明する研究が中心であり、情動との関連性を追究した基礎的な研究に乏しい状態にあったが、本研究の結果では、直立姿勢が情動と相関関係を持ち、情動の変化が直立姿勢における平衡機能の変容に影響を与えていることが示されたと考えられる。